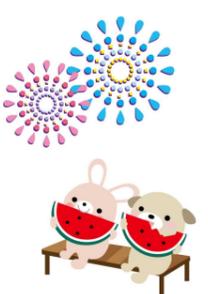




2024年度 年主題 くさあ、漕ぎだそう 奏でよう!

0・1・2歳児 7月主題 「きもちいいね・ぞんぶんに」
月のねがい
 ◎保育者の祈りやさんびかに親む(0)
 ◎暑いので汗を流してもらい、心地よさを感じる(0)
 ◎砂や泥、水に触れ、その感触に興味を示す(0)
 ◎折りや賛美を喜ぶ中で神様とであう(1.2)
 ◎やりたいことを存分に楽しみ、そばにいる友だちの存在に気づき共感する(1.2)
 ◎泥、水、土などに触れ、感触を楽しむ(1.2)

3・4・5歳児 7月主題 「こちよく」
月のねがい
 ◎保育者の祈りを通して、自分も友だちも神さまに愛されていることを繰り返し聞く(3)
 ◎自分を思いを表現しようとする。また思いが通らないことを経験したり、共感され安心したりする(3)
 ◎水・泥遊びなどを思いっきり楽しみ、気持ちよさを感じる(3)
 ◎賛美することや祈ることの心地よさや喜びを知る(4.5)
 ◎五感を使う楽しさや面白さを経験し、新しいことにも挑戦する(4.5)
 ◎花や野菜の世話、生き物の飼育をしながら、自然の営みのおもしろさや命の大切さを知る(4.5)



自分を大切に。

毎年、県幼稚園協会主催の主任会へ参加しています。今年は、あいにくの天候不良で、急きよりリモートでの参加となりました。いくつかの講話の中で、人権教育の講話の講師が、なんと本園の元保護者の方でした。息子が4年生の時の担任でもあったという事もあり、リモートでしたが、久々の再会に懐かしさを感じながらお話を聞くことでした。話の中で特に印象深かったのは、「決して一人で抱え込まないこと」という言葉でした。先生は教え子とのやりとりで行き詰まったとき、一人で抱え込まず集団に育ててもらおうと考え、クラスの子どもたちに助けてもらおうと思ったそうです。「頼る力」を育てていく過程で、困っている子がいたら、周りの子どもたちも手を差し伸べ、自分が困ったことがあったら、「手伝って！助けて！」と言えるようになっていったとのことでした。大人になってからも困難はつきものです。そんな時に、素直に気持ちを伝えたり助けを求めたり、他者に見て見ぬ振りをするのではなく寄り添えることが、大事なのだと改めて思うことでした。

そしてもう一つは、「自分を大事にすること」です。一日の終わりに「今日も、よく頑張った！」と、声に出して自分自身を褒めることを必ずしてあげましょう。そして、周りの頑張っている保護者や子どもたちにも同じように伝え、抱きしめてあげましょう。自分にも、肩や腕をスリスリするだけで、リセットされ明日への意欲に繋がるのだそうです。褒められることや認められることは、大人も子どもも嬉しいことですね。私も自分をいたわりながら、子どもたちの頑張っている姿や嬉しかったり悔しい思いをしている姿を見逃さず、それぞれの思いを受け止めていきたいと思いました。

あつという間に7月です。海やプールを計画したり、年長児はお泊まり保育があったりと夏ならではの行事が目白押しです。感染症にも気をつけながら、ダイナミックに楽しんでいきたいと思います。

森山

今月の聖句 「隣人を自分のように愛しなさい」

マルコ福音書12:31
 今月、御言葉「隣人を自分のように愛しなさい」には、もう一つセットになった教えがあります。それは「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたを愛しなさい」という教えです。神を愛し、そして隣人を愛しなさい。これが聖書の全体の尊い教えです。そこから「敬神愛人」という言葉が生まれました。西郷隆盛の座右の銘「敬天愛人」と一字違いますが、基本的に同じ意味の言葉です。

大ヒットしたNHKの朝ドラに「おしん」という番組がありました。おしんが奉公した先の老女将役を演じた長岡照子さんという女優がおられました。彼女はクリスチャンでした。NHKの放送50周年記念として、長岡さんとおしん役の女優が対談する番組の中で、老女将が二十年前ぶりにおしんに会ったという想定で、長岡さんが用意した文章を朗読するという場面があります。長岡さんは次のようなことをおっしゃいました。愛とは何か。この先行き不透明な時代、本当に何をどうしていいかわからない。皆しらけて言うのです。「右を見て左を見て暗いことばかりだけれども、でも心配いらない。恐れることはない。自分を捨ててかかると。自分の幸せを求めれば求めるほど、幸せは遠退いていく」と。これは長岡照子さんの現代へのメッセージだと思えます。「何をするか、どういう仕事をするか、どういう役を担うか、それは何でもいいのです。大事なことは、愛を持ってするということです」(女性精神科医エリザベス・キューブラー・ロスの言葉)。

協力牧師 池田基宣



7月の行事予定

3日(水)	海遊び4・5歳児・弁当日
5日(金)	七夕事業所訪問
8日(月)	7月誕生会
10日(水)	海遊び2・3歳児
13・14日	お泊まり保育(年長児)
18日(木)	市営プール遊び(年中長児)
19日(金)	1学期終園式(1号:午前保育)

8月の行事予定

1日(木)	夏期保育(午前保育)
13~15日	お盆休み
21日(水)	夏期保育(午前保育)
未定(土)	夏期おやち保育

心と身体を育む食育を考える

梅雨入り宣言から本格的に大雨を迎えたのが遅かった六月。今、梅雨真つ盛りりの様相ですね。梅雨明け宣言はまだですが、昨年同様、いきなり真夏の熱波が襲ってきたりして怖いですが、コロナの感染も聞き、今後も続くことを再認識させられます。病気が暑さにも負けないよう免疫力アップを目指しましょう。

このころ、立て続けに保育者の起こした事件が世間を騒がせています。中でも、鹿児島島の件は驚きで言葉になりませんでした。同業者でもあり詳細が分からないので、安易なコメントは差し控えますが、起こってはいけないうちが起ってしまったことか言いようがありません。むしろ、いつかは起こってしまうことだったのでしようか。皆様に不安な思いを与えてしままい、実に残念です。

さて、七月から八月にかけては、我々職員にとって自己研鑽の時期でもあります。コロナ禍では全く対面の研修ができず、ほぼリモート研修でしたが、最近はかなり対面研修が復活し始めています。中でも、県内の私立幼稚園の職員が千人規模で参加する教職員研修大会は大きなイベントです。今年の熊毛担当の分科会テーマは、「子どもの健康な心と身体を育む食育を考えた」になりました。今年も健康な心と身体を育む食育を考えたという確認を改めて行うことは大きな意義があります。「食育」の指す範囲はとも幅広いもので、まずは保育者自身が食育の基本理念を理解し、乳幼児期の食のあり方を捉え直すことが必要です。そもそも、食育が重視されるようになった背景には、家庭や社会の変化により、従来は自然に身につけたはずの基本的な食習慣が身につけられていない子どもが増えたことが考えられます。健全な食生活や栄養に関する基本的な知識、さらには著しいなどのマナーが最初に思い浮かびます。しかし、それだけではなく、他の生き物の「いのちをいただく」ことも食育の大切な視点ではないかと思えます。子どもたちが、「生きる」として、「生かされていく」ことを知る大切な時間です。また、保護者の皆様から食事・生活調査のご協力もいただき、園児の現状をありのままに捉えることも必要なことだと思います。今回は、自然環境を活かした米作りを中心に、食に関する様々な計画を改めて見直すよい機会と捉えました。毎月の給食会議の中で、地産地消を考慮した給食メニューの研究も深めていきたいと思います。食への興味・関心につながる幼児期にふさわしい生活とは？、ふさわしい環境とは？、ふさわしい遊びや学びとは？。いつも探求し続けなければならぬものです。

いよいよ夏本番。海やプール、山や野原で走り回り、カニや小魚やカブトムシを追いかける。時にはロケットが飛んでいく姿を見上げる…。お子さんと一緒に遊びを楽しむ時間は、思いの外短いものです。どうぞ宝物のような瞬間を皆さんで楽しんでください。

園長

親子で一緒に楽しい時間を！！
読み聞かせについて

読み聞かせは、絵本や本を子どもに読んで聞かせ、幼い子どもたちがおはなしの楽しさを感じるひとときです。と同時に、読んでいる大人もはなしを楽しみ、子どもと一緒にその時間を共有することこそ、とても大切な触れ合いの時間となり、幸せを感じる宝の時間となります。

西之表市では、こども園・幼稚園・保育園から、小中高校までの先生方が集まり、子どもたちの健やかな育ちを話し合う年に3回の集まりがあります。今年度は特に『親子で一緒に読み聞かせ』をスローガンに取り組む事となりました。

「何歳から読み聞かせは出来ますか？」と聞かれることがあります。1歳の誕生日を迎える前からでも大丈夫です。子どもは、ことばの音や、リズムを楽しむ手や足をバタバタと動かし、楽しさを表現してくれるでしょう。赤ちゃんの時から読み聞かせの習慣がつくと、大きくなってから、「これ読んで！」と、自分から好きな本を持ってくるようになっていきます。

同じ本をいっしょに見ることを楽しみましょう。



持ってきたときは、時間が許される範囲で読んであげてください。好きな絵本が増えることで、楽しいが広がり、子どもの世界もひろがっていきます。

こころとことばを育てる読み聞かせ

読み聞かせによって、大脳の感情をつかさどる部分が活発になると言われています。「読み聞かせなんてしたことないよ！」というお父さん、お母さんも是非チャレンジして頂きたいです。こころとことばが育てられ、親子での触れ合う時間は子どもの信頼関係を高め、愛着形成に大いに繋がります。

楽しい読み聞かせでこころの安全基地を！！

大事にしてあげたいことが2つあります。ひとつは、子どもが「楽しい」と思う絵本をいっしょに読んで下さい。もうひとつはお父さん、お母さんも一緒に楽しんで読んでください。一緒に楽しんで読むことで、子どもが家庭を「安心できる場所」「こころの安全基地」と感じ、健やかな成長繋がっていくことと思います。どうか、各ご家庭で、素敵な絵本との出会いが生まれ、楽しい時間が過ごせますようにと願っています。

副園長

